



お知らせ

- #2016年上期セミナー第2回 5月14日(土) 草志舎
- #畑儀文の合唱教室 5月16日(月) 草志舎
- #2016年度通常総会 5月21日(土) 草志舎
- #コウノトリの郷との交流 5月29日(日) 豊岡
- #ヴォーリズ建築文化全国ネットワーク大会 6月4日(土) 軽井沢
- #2016年上期セミナー第3回 6月11日(土) 草志舎
- #畑儀文の合唱教室 6月20日(月) 草志舎
- #ヨーロッパナショナル・トラストの旅・イタリア編 6月27日(月)～7月5日(火)
- #畑儀文の合唱教室 7月11日(月) 草志舎
- #セミナー(東京) 7月23日(土) 自由学園明日館
- #シンポジウム 8月8日(月)～10日(水) 六甲山荘

総会に行きましょう!

2016年度の通常総会をつぎのように開催します。

日時 **5月21日(土)** 午前10時半 場所 草志舎(阪急西宮北口駅から徒歩3分)

今年度の活動について決定する大切な集まりです。どうぞご参加ください。

また総会後は交流会をひらき、食事をしながらみんなであれこれとおしゃべりを楽しみましょう。

会員の作品展も同時開催します。趣味の工芸、手芸、手仕事などの作品をお寄せください。会場に飾らせていただきます。

総会の通知と返信用ハガキを同封しております。出欠をお知らせください。

正会員で欠席の方はハガキの委任状を必ずお送りくださるようお願いいたします。

2016年度セミナー「足跡を探訪する」

<主催:文化遺産継承協議会>

2016年度の上期セミナーは「足跡を探訪する」と題してお送りしています。5月と6月はつぎのようなラインアップです。

*** 5月14日(土)「ヴォーリズさんの志とその事業」** 講師 藪秀実(ヴォーリズ記念館館長)

ヴォーリズ記念館はヴォーリズが満喜子夫人と住んだ自宅で、現在は二人の遺品や資料を保管・展示してヴォーリズ夫妻の想いを今に伝えています。今回は館長の藪さんが近江八幡から来られてヴォーリズの人となり、近江ミッションなどの業績、「素顔のヴォーリズ」を語ってくださいます

*** 6月11日(土)「ヴォーリズ建築探訪」** 講師 堀井清孝(「やまとびと」編集長)

雑誌「やまとびと」でヴォーリズ建築を訪ねるシリーズ記事を自ら取材・執筆された経験をふまえて語る。

場所 いずれも草志舎(阪急西宮北口駅から徒歩3分)

参加費 会員1,500円 一般2,000円(お茶つき)

詳しくはホームページに掲載されています。ご参加でまだ登録しておられない方はご連絡ください。

ご報告 マーマレード作り 3月8日(火) 草志舎

草志舎中が柑橘の香にそまった一日でした。10キロの甘夏をむいて、刻んで、ゆでて、煮込んで、瓶詰めして・・・やっとできあがりました。皆さんからたくさん空き瓶を送ってくださったのがしっかり役立っています。冷凍保存していますので、お入り用の方はご連絡ください。六甲山荘でも販売しています。

第12回コウノトリの郷との交流

<トラストユースセンター・プログラム>

コウノトリを育むための田んぼでとれるお米がおいしくて安全だとは、人間も自然のなかで生かされている証です。コウノトリの郷豊岡での農業体験、畷悦喜さんの指導のもと今年は田植えをします。トロトロの泥の中に手でイネの苗を植えていくのは「瑞穂の国」を実感できる体験です。ぜひご参加ください。



昨年の田植え風景

月日 2016年5月29日(日)

集合 午前10時半 豊岡市立地域農業管理施設(豊岡市祥雲寺)

解散 現地 午後3時ごろ

参加費 会員1,500円 一般2,000円(昼食代ふくむ・大学生以下は半額) + 車代

内容 午前・田植え 午後・コウノトリ観察(コウノトリ文化館にて)

昼食 畷さんの田んぼでとれたお米でおにぎりをつくって、いただきます。

*参加者の車に乗り合わせて移動したいと思います。お車で参加で、同乗可能な方はご連絡ください。

現在8人乗りの車1台は用意できます。

詳しくは同封の案内チラシまたはホームページをごらんください。

ご報告 畑儀文の合唱教室 3月7日(月) 4月18日(月) 草志舎

季節はやっぱり春のうた! 4月にはお試し参加の方もこられて、歌声もいっそうはずみます。

ご報告 セミナー下期 3月12日(土) 聴竹居

藤井厚二の実験住宅と評判の高い聴竹居を「聴竹居」倶楽部代表の松隈章さんとガイドの方の案内で見学しました。自然の冷気を取り込む工夫や建物の強度をたもつ筋交いを兼ねた棚など、心ゆくかな暮らしのための空間でした。



2016年度セミナー「足跡を探访する」第4回 at 東京

<主催:文化遺産継承協議会>

セミナー上期の4回目は東京で行います。英国ナショナル・トラストが自然資産・歴史資産の保全に大きな成果をあげていること、アメニティ2000協会がナショナル・トラスト運動を実践していることを訴えます。日本でもナショナル・トラスト運動が広く根付くようにとののはたらきかけの第一歩です。

日時 2016年7月23日(土) 16時30分(16時15分受付開始)

場所 自由学園明日館 大教室タリアセン(東京都豊島区西池袋 2-31-3)

題 「ナショナル・トラスト運動の試みーアメニティ2000協会の歩み」

講師 清水彬久理事長

定員 35名(定員に達し次第締め切り)

参加費 1,500円(お茶代含む)

オプション 目白ヶ丘教会と雑司ヶ谷旧宣教師館訪問 13時J R目白駅集合 参加費300円



案内チラシは5月末に総会資料と一緒にお渡しします。関東地区のお知り合いにどうぞお声をおかけください。

ご報告 六甲山荘作業 3月7日(月)

山荘の屋根に落ち葉がたまって屋根が傷むのを防ぐため、建物のそばにある樹木の枝をはらう作業は昨年に行っていますが、手の届きにくいところが残ってしまいます。この日は電動のこぎりを長い棒の先につけて高枝を切るという離れ業に増田さんと米津さんが挑戦されました。



【コラム】

「英国ナショナル・トラスト」ができるまで

清水 順子

古くからの会員の方は覚えておられるかもしれません。2002年にはじめて英国ナショナル・トラストの旅にかけた翌年に「英国ナショナル・トラストの旅」という小冊子を作りました。ナショナル・トラストという組織の紹介、訪問したプロパティの案内、参加者の感想文という内容です。回をかさねて3冊目まで作ったところで中断しました。2014年に7回目で（とりあえず）最後の英国訪問が終わったとき、創立15周年事業として、旅の総括としての冊子をだすことになりました。

折しもナショナル・トラスト研究に携わる颯原澄子さんと山本真紗子さんにご縁ができ、小論文を寄稿していただくことになりました。千葉大学大学院准教授の颯原さんはナショナル・トラストの思想的背景、その活動を支えている精神について述べています。東京工業大学博士課程の山本さんは現代のナショナル・トラストがどういう方針で時代に寄り添う活動を展開しているのかを検証しています。この二つの小論文のおかげで内容がぐっとパワーアップしました。くわえて清水理事長がナショナル・トラストの歴史と現状について書いていますので、またとない入門書になっていると自負しています。

頭を悩ませたのは写真の選定です。プロパティ紹介には1枚しか使えないしモノクロです。カラー写真は4ページしかないのです、どれをもって来るか。中表紙の背景はどれがふさわしいか・・・なまじ写真がありすぎて四苦八苦しました。

紹介したプロパティは88ヶ所にのぼります。それでもほんの一部です。イギリス全体でどんなに多くの自然や文化遺産がナショナル・トラストの力で守られているか。この本でそれを感じていただけ、日本にもこの運動が早く広がって、日本人共有の「宝もの」を次代につないでいけることを願っています。

◇◆◇おしゃべリアラカルト◇◆◇

ナショナル・トラスト “万歳”

貴島 普

桜の開花をつたえる春の便りとともに、1冊の小冊子が届けられました。アメニティ2000協会の「英国ナショナル・トラスト」でした。

読み進むうちに協会が創立以来着実に成果を上げられていることを目にして、あらためて感銘を覚えました。これまでのたゆみないご努力に対し深甚なる敬意を表する次第です。

本誌は協会の創立15年を記念してナショナル・トラスト運動の発展を願い刊行したとされていて、I. 英国ナショナル・トラストの歴史・思想・活動 II. 協会が訪問したプロパティ 及び III. 15年間の足跡 が編纂されています。

あらためて協会の設立趣意書を読ませていただきましたが、自然環境保護、歴史的・文化的財産の環境保全に加えて文化芸術活動をテーマに掲げナショナル・トラストを基本理念として、これまで進めてきた道筋は不変で一貫した姿勢を大変心強く思いました。

発刊に際して寄せられた国際ナショナル・トラスト機構の祝辞に「アメニティ2000協会をメンバーにむかえて大変誇りに思っている」との言葉を見るにつけても、当協会に全幅の信頼を寄せられていることがうかがえて誇らしく感じました。

誠に僭越ではありますが、まずは本誌に対する率直な感想を述べさせていただきます。

さて、私はこれまで協会の活動には大変不熱心で十分な役割が果たせていませんが、英国ナショナル・トラストの旅には3回夫婦連れで参加し勉強させていただきました。2004年イングランド北部と湖水地方、2006年イングランド・コーンウォール地方、2010年北アイルランド・アイルランド共和国 です。

本誌には訪問先のプロパティの数々が丁寧に紹介されていますが、それぞれの旅では忘れることができない深い感動と、強烈なショックを受けて帰ってきました。

プロパティの見学を通じてその素晴らしい景観、歴史の深さと精神の崇高さ、さらにその維持運営の下支えになっている膨大な会員数に圧倒され、管理に携わる誇り高きボランティアの活動に感嘆させられてトラスト運動の大きさを認識してまいりました。

アイルランドの旅の前には、司馬遼太郎著「愛蘭土紀行」を読んで多少予備知識を入れていました。おかげでアイルランドの自然環境の美しさと、厳しさの中で人々の素朴で我慢強い民族性の一端を肌で感じる事ができたような気分になりました。特に印象に残っているのは、アラン諸島最大の島イニシモア島ですが、そこに住む人々が岩をくわいて石垣を築き、土を造り、延々と続くその石垣を見ていると苛酷に耐える人間の強さを感じました。

大西洋に面した世界遺産ドン・エンガスの切り落とされた大断崖で司馬さんにあやかり、腹ばいになって恐る恐る下を覗き込み、アイルランドを肌で感じました。恐怖の体験でした。

司馬遼太郎は書いています。

「大断崖まで、腹這いになってすすんだ。私は、虚空へ首一つだけ出してみた。下は、吸いこまれそうなほどに高い。アラン島というのは、要するにそこを訪れるだけでも人をおびやかす島だということが、突き出している首が考えた」と。

英国ナショナル・トラストの旅の忘れられない一コマでした。



「英国ナショナルトラスト」を読んで

安場 温子

「英国ナショナルトラスト」といえば まず頭に浮かぶのが 絵本「ピーターラビット」の作者 B. ポターが 物語を生んだ豊かな自然と家をナショナルトラスト (NT) に寄贈することによって今もその当時のままの環境が保たれている という 漠然としたイメージを持っていた。そして一度はそのヒル・トップに行ってみたく思っていた。

そのチャンスは逃してしまっただが アメニティ 2000 が企画した英国ナショナルトラストの旅の最終回に参加しその実像を垣間見ることが出来た。

ローマ時代の砦の跡 おとぎ話の中の家のような牧師館 岸壁をくりぬいて作られた家 使用人の日常まで彷彿とさせられるような貴族の館 そして王侯貴族になったような気分を味わえた宿泊可能な城。これら



がすべて「1人の1万ポンドより1万人の1ポンド」とボランティアで運営されている NT によって管理運営されていると知り、その規模の大きさに本当に驚いた。英国の NT の会員は約 420 万人 人口の6%というから この運動がしっかりと根付いているのだろう。

そしてこの本を読んで そもそもこの運動が始まったのは、産業革命によって経済重視の風潮の中 自然 文化的遺産が次々破壊されていくのを危惧した3人の人 そして寄贈された一崖地の自然を守ることからの出発であったという。

今まさに私達は経済最優先の時代の中 次々と自然が破壊され 文化的遺産が壊されていくのを目の当たりにしている。子供時代に遊んだ青松白砂の遠浅の海岸は埋め立てられ工場が林立しているし 通りがかりに見ていた素敵なお屋敷がマンションに建て替わっている・・・等々。

これらを守るには 自然や文化的な遺産の価値を知ること、そしてそれを守りたいという強い意志が大事だと思う。又それでも立ち行かないことも多々あるのが実情のようだ。相続税など 英国のような国の後押しもぜひ必要だろう。日本でも個々に色々な建物 自然 街並みなどをボ

ランティア活動によって保存し維持している場所はかなりあって この頃は文化遺産を守ろうという気運も高まっているようにも思う。

願わくはこれ以上美しい自然が無くなったり 先人の築いた素晴らしい文化的財産が失われたり まして人の住めない土地を生んだりしないようにと祈るばかりだ。今私たちに出来ることは「一人の1ポンド」と ささやかな「一働き」を実行することかもしれない。

聴竹居を訪ねて

駒井 峯子

3月12日早春赤い寒緋桜、黄色の山茱萸を見ながら緩やかな登り坂を進む。聴竹居の標識を見て階段を上がると石の怪物が置かれている。ダイヤモンド型のカットガラスが嵌められた玄関ドア、陽の光を受けて美しく輝いていた。再度訪問出来た事嬉しく思います。87年前に建築家藤井厚二が手掛けた重要文化財級の私邸が現存している。日本経済新聞に「理想の私邸を守り続ける聴竹居」として時の回廊で紹介されていました。



「日本の気候風土にあった日本人の身体に適した住宅」を追求してこの大山崎の地に建てられた5番目の実験住宅「竹林の風の音を聴きながら静かに暮らす」の心境から名付けられたとのこと。リビングを中心に動線のある数寄屋造りと欧風のモダニズム建築との融合。畳の部屋、椅子とテーブルの部屋もあり。風の通りを家中にと縁側の矢羽根に編まれた網代天井にスライド式の通風口があり居室の床下にも土管を使い庭の木陰からの外気が送り込まれている仕組みに感動しました。縁側の横連窓からの眺望を最大限に楽しめる様隅の柱をなくす技法。椅子に座って見る人と畳の床を30cm上げて座った人の目線を合わせる設定等納得する事ばかり。食堂入り口に厚二自身がデザインした時計、収納された神棚、埋め込まれた照明は見る場所を考え大きさが様々錯覚を利用の奥深さに引き込まれました。最後に松隈章様の解説ガイドに感謝致します。

ヴォーリス建築文化全国ネットワーク大会

ヴォーリス建築を所有者やヴォーリス建築のファンが作っているネットワークの大会が今年軽井沢で開かれます。

月日 6月4日(土) 5日(日)

場所 軽井沢

内容 4日 総会 13:30～ <軽井沢ユニオン・チャーチ>

講演会 14:30～ 田淵結(関西学院院長) 報告会 15:30～

交流会 17:00～ <万平ホテル>

5日 見学会 9:30～ <軽井沢ユニオン・チャーチ集合> 亜武巢山荘 ほか

参加費 講演会:1,000円 交流会:7,000円 見学会:1,000円



申込はアメニティ 2000 協会からいたします。参加ご希望の方はどのプログラムに参加するかもご連絡ください。詳細は同封のチラシあるいはホームページをごらんください

ご報告 六甲山荘作業&研修 3月26日(土)



スタッフ研修は安場耕一郎さんの指導で行いました。また作業は三井住友信託銀行神戸支店ほかから17名の参加がありました。若い力で室内も庭もすっかりきれいになり、公開準備が整いました。昼食には落ち葉で野菜をたくさん焼きましたが、玉ねぎ、サツマイモ、長ネギなどが絶品でしたよ。

ご報告 2016年上期セミナー第1回 4月9日(土) 草志舎

「英国ナショナル・トラスト」の刊行を記念して、英国ナショナル・トラストについて、その歴史と現状をお話ししました。後半は協会が訪問したプロパティの一部を紹介しました。



この夏 六甲山荘で シンポジウム 開催します

アメニティ2000協会はナショナル・トラスト運動を活動のひとつの柱にしています。この運動が日本でより広く理解され、定着し、貴重な文化遺産を保護していく心を市民が共有することが協会の大きな目的でもあります。その端緒として次のようなシンポジウムを開きます。

月日 : 8月8日(月)~10日(水) 場所 ヴォーリズ六甲山荘

テーマ: 「ナショナル・トラストの可能性」

スケジュール: 8日午後 ナショナル・トラスト運動の概要と一つの試み

<清水彬久 アメニティ2000協会理事長 <清水順子 アメニティ2000協会事務局長>

9日 午後 ナショナル・トラスト研究者による発題

<穎原澄子 千葉大学大学院准教授> <山本真紗子 東京工業大学博士課程>

10日 午後 ナショナル・トラストの課題—法律面・建築面

<米津寛司 旧武藤山治邸館長> <岡崎行師 弁護士>

*9日、10日は午前10時よりワークを行ないます

定員: 30名

参加費: 全日参加 会員3000円 一般4500円 学生1500円

一日参加 会員1500円 一般2000円 学生500円

詳しい案内は5月末に総会資料と一緒にお渡しします。

ご報告 和のこもの展 4月27日(水) 28日(木) 草志舎

今年もすてきな作品がならんだ会場でした。初日はいつもながらの大盛況、2日目は天気がわるくお客さまも少な目だったのに、同じくらいの売り上げがあったそうです。商売というのは面白いものですね。協会の担当したお昼ごはんも好評で、完売でした。

スタッフの皆さん、ありがとうございました。

お昼ごはん: 茶巾ずし、稲荷そば、花豆、野菜のアーモンド和え、若竹汁



手づくりマーマレードができました!

材料は甘夏と砂糖だけ、無添加で保存料なしのおいしいマーマレードはいかがですか。熊本で有機柑橘を生産している農家会員の中嶋さんの甘夏でつくりました。

皆さんから寄付いただいた空き瓶に詰めましたので、大きさはまちまちですが、1グラム=2円(1瓶300円前後)でお届けします。

六甲山荘でも販売しますし、お入用の方にはお送りあるいはお手渡しできます。ご連絡ください。

総会準備のスタッフ募集

5月21日(土)に総会がありますが、その準備のスタッフを募集しています。総会資料をまとめたり、宛名ラベルを貼ったりと簡単な内容ですが、全会員宛てなので量が多いのです。一部の時間でも結構です。おいでになれる方はご連絡ください。

5月17日(火)~20日(金) 午後1時~5時

場所はさくら荘102号室(阪急西宮北口駅から徒歩3分) はじめての方にはアクセスをお知らせいたします。

募金のご報告～2月3月
2月、3月にご寄付いただきました

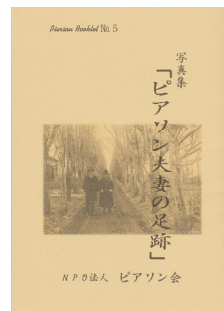
***文化遺産継承基金**

《2月3月合計 37,500円 2015年度累計2,490,003円》

写真集「ピアソン夫妻の足跡」

北見市にあるピアソン記念館は北海道にある唯一のヴォーリス設計の建物です。ピアソン夫妻がここを拠点に1928年まで宣教活動を行いました。現在は北見市の所有で、NPO法人ピアソン会が管理・運営しています。この5月に発行する「アメニティ・レポート2015」に、ピアソン会の理事伊藤悟さんが「ヴォーリス建築物語」に特別寄稿してくださっています。

そのピアソン会がこのたび「ピアソン夫妻の足跡」という写真集を出版されました。ピアソン夫妻の日本での活動の足跡を写真でたどるというもので、ピアソン記念館が収蔵している写真を中心に、その年代、人々、時代背景などを克明に調査されたものです。古いものは1890年代というのですから、写っている場所や人物の特定は大変な作業だったと思います。その労作を一部恵送いただきました。閲覧ご希望の方はお知らせください。



にぎやかなお昼ごはん

六甲山荘・公開準備作業



八重桜の苗を植える